

LUDWIG VAN
BEETHOVEN
Symphony no.5

横浜ゾリステン〜Debut concert〜



Program

Ludwig van Beethoven

『命名祝日』序曲 Op.115

ロマンス第1番ト長調 Op.40

ロマンス第2番ヘ長調 Op.50

～ 休憩 ～

交響曲第5番「運命」ハ短調 Op.67



横浜ゾリステン

本日はご多忙の折、横浜ゾリステンのデビューコンサートにご来場くださり、誠にありがとうございます。団を代表し厚く御礼申し上げます。横浜ゾリステンは音楽専門家集団により今年結成された、新たなプロフェッショナル・オーケストラです。私たち横浜ゾリステンは“本物の音楽とは何なのか”この一点を追求し、伝え続けることを目的として結成しました。約40人のソリストが持てるパフォーマンスを最大限に発揮し、これらがひとつに結集して導かれる音楽の世界を皆様方と共に展開していきたいと考えています。

多くの音楽家が、気のあった仲間と室内楽等の演奏活動を展開し高いパフォーマンスを実現するのと同様、この考え方をオーケストラという形で具体化します。そのために私達は指揮者を置かないアンサンブルで挑戦します。我々横浜ゾリステンは本デビューコンサートを皮切りに、更なる演奏活動等を展開してまいります。

毎日の雑然とした生活からほんの一步離れ、二時間…ばかり肩の力を抜いてゆったりと聴こえてくるベートーヴェンに身を身をゆだね、難しいことは考えず「感じた」ままを「感じて」いただければと思います。最後になりましたが、今後とも私たち「横浜ゾリステン」をどうぞよろしくお願い致します。

横浜ゾリステン事務局長 住田英二

～次回演奏会のご案内～

日時：平成22年5月11日（火）19:00開演予定

場所：みなとみらい小ホール

演目：ブラームスプログラム

♫ プログラム・ノート

『命名祝日』序曲 Op.115

今回、デビューコンサートのオープニング曲に採用されたのが「命名祝日」序曲。

比較的、マイナーな曲にも陽を当てていくという趣旨の基に選ばれたのもありますが、タイトルがおめでたい響きがあるということで相応しいということで決まりました。

曲は現ポーランド領のボズナン大公国の政治家ラジヴィウに献呈された演奏会用の序曲です。

ただ、この曲、完成までには紆余曲折があったようです。

1814年オーストリア皇帝の命名祝日に歌劇「フィデリオ」を上演する計画がありましたが実現せず、代わりにコツェブーという人の「不滅の百年」という演劇が取り上げられました。その時にベートーヴェンのこの曲のスケッチなどを基に劇伴音楽を作って急場をしのいだという資料が残っています。

最終的には1815年12月25日クリスマスにウィーンで初演されました。タイトルの「命名祝日」もベートーヴェンが付けたものではないですが、先に記した事を根拠に別人が「命名」したものでしょう。

この序曲はハ長調で書かれていますが、他のハ長調序曲「献堂式」序曲と区別するために付けたタイトルと思われます。

ロマンス第1番ト長調 Op.40 ～ ヴァイオリン ソロ 水村浩司 ～

ロマンス第2番ヘ長調 Op.50 ～ ヴァイオリン ソロ 須山暢大 ～

ベートーヴェンが1802年～1803年にかけて作曲した、ヴァイオリンと管弦楽のための小品。

作曲時期としてはベートーヴェンが耳疾患に襲われ「ハイリゲンシュタットの遺書」を記した頃の直後になるわけですが、この頃の作品にしては豊かな旋律あふれた曲になっています。

形式や構成力で評価される事の多いベートーヴェンですが、メロディメーカーとしての側面を感じるヴァイオリン曲としては重要なレパートリーでしょう。

交響曲第5番「運命」ハ短調 Op.67

ハイドン・モーツァルトという古典派の重鎮達が交響曲を多作していたのに比べて、ベートーヴェンは生涯に9曲の交響曲しか残していません。職業音楽家としての地位を確立し、後世に残す事を前提に作曲されたベートーヴェンの交響曲は9曲とも珠玉の作品と言わざるを得ません。でも、後の作曲家からすれば交響曲というジャンルのハードルを減法上げてしまったのだから災難と言えなくもないですね。

そのような9曲の中でも最も有名なハ短調の第5番。

「運命が戸を叩く」と言われる「ダダダーン」のインパクトある動機を巧みに操り、全曲の各所で登場させる事によってたぐい稀な統一感を生み出しています。あと注目すべきは音楽に劇性を与えたというか「暗→明」「苦悩→歓喜」の流れを楽曲で表す手法はロマン派の作曲家の規範になったのではないのでしょうか。

ただ、現代の世の中で良くも悪くも「ダダダーン＝運命＝ベートーヴェン＝クラシック音楽」とイメージされている所で、我々がどうアプローチ出来るかがポイントであります。

ソリスト・コンサートマスター



水村浩司（ロマンス1番ソリスト、「運命」コンサートマスター）

1996年、第50回全日本学生音楽コンクール名古屋大会小学校の部第1位。2001年第55回同コンクール名古屋大会高校の部第1位。2003年東京芸術大学音楽学部器楽科入学。2007年3月同大学を卒業。1998年フランス・ニース夏季国際音楽アカデミーに参加。コンサートに選抜され出演。これまでに北垣紀子、故・久保田良作、澤和樹、山口裕之、松原勝也の各氏に師事。現在東京芸術大学大学院に在学中ながら、東京シティフィルハーモニック管弦楽団その他数々のオーケストラとヴァイオリン協奏曲を共演する。またオーケストラ奏者としても、名古屋フィルハーモニー交響楽団のゲストアシストコンサートマスターをつとめる他数々のオーケストラに客演。また、名古屋にて姉の水村さおりとデュオリサイタルを3回行う他、クラリネットの原田綾子、水村さおりとアンサンブルオラシオンを結成しトリオ演奏会を開く。



印田千裕（命名祝日序曲、ロマンス1,2番コンサートミストレス）

3歳よりスズキ・メソッドでヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属音楽高校、同大学卒業。'04より英国王立音楽院で学び、Diploma of the Royal Academy of Music (Dip RAM) を得て卒業。これまで吉川朝子、澤和樹、ヴォルフガング・マルシュナー、ジョルジー・パウクに師事。ノヴォシビルスク・ヤングヴァイオリニスト国際コンクール・ジュニア部門第3位、マルシュナー国際コンクール第3位、江藤俊哉ヴァイオリンコンクール第1位。オーケストラとの共演、リサイタルなど国内外で幅広く演奏活動を行うほか、イギリス留学中に結成した「ベラルティトリオ」また「日本女性作曲家の歩み〜ヴァイオリン作品〜」（'09年度文化庁芸術祭参加作品）CDをミッテンヴァルト・レーベルよりリリース。2009年CHANEL Pygmalion Days参加アーティスト。



須山暢大（ロマンス2番ソリスト）

1987年東京都出身。2003年ドイツ連邦共和国大使館に於いて演奏。2005年国立音楽大学附属高等学校招待演奏会に出演。第1回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール第2位。NPO法人イエローエンジェルより、2年間1831年G・F・ブレッセンダ製作(E・X・シュルツ)を貸与される。2007年シオン・ヴァレ国際ヴァイオリンコンクール第5位。大学内では、2008年弦楽シリーズ「Virtuoso、サラサーテとその時代」に於いてソロ演奏、2009年第35回「藝大定期室内楽」、モーニングコンサートに出演。これまでに小松長生指揮セントラル愛知交響楽団、Shlomo・Mintz指揮Orchestre Dohnany Budafok、山下一史指揮藝大フィルハーモニア、その他多くのアマチュアオーケストラと共演。ヴァイオリンをグリゴリー・フェイギン、石川静、ジェラルド・ブーレ、山口裕之各氏に師事。室内楽を川本嘉子、岡山潔、山崎伸子各氏に師事。都立芸術高校を経て、現在東京芸術大学4年在学中。

🎵 コンサートマスター直撃インタビュー

(聞き手：山之内正、コンサートマスター：水村浩司)



聞き手 山之内正氏

ー 指揮者をおかないオーケストラを始めたきっかけを教えてください。

水村： アッシュケナーズさんがN響の演奏会中に怪我されたとき、後半のシンフォニーを堀先生が弾き振りされたことがありました。その映像を見て物凄く感動して、やってみたいと思いました。

ー 学生時代など機会があったのでは？

水村： 実はありそうでないんです、指揮科の学生が振りますから。今回のプランを聞いたときは、即決で「やる！」と返事しました。

ー でも不安もあったでしょう？

水村： それはあります。まず、本当に成り立つのかということです。最初の練習の前はとにかく不安でしたね。



水村浩司氏

ー 初練習はどうでしたか？

水村： 思った以上にうまくいきました（笑）。さすがにソリストの集まりだから、それぞれ腕が素晴らしい。でもそれがバラバラになってしまっただけなので、個性をうまく生かしつつ、どう一つにまとめるかというのが、新しく生まれてきた課題でしたね。課題というより、楽しみでもあるんですが。

ー 指揮がないことで新しく体験できたことはありますか？

水村： 指揮者の苦勞がよくわかりました（笑）。『運命』のような有名な曲でも、「指揮者って意外にいろいろな仕事をしているんだな」と、あらためて気付かされましたね。何度もやっている曲でも指揮者のさじ加減でどんどん変わることが実感できます。

ー 特にどのあたりが？

水村： 2楽章ですね。テンポ、出だしのヴィオラとチェロパートの歌い方とか、何回も繰り返していくことで、次第に揃ってきます。

ー メンバーからの意見や注文もありますよね？

水村： 練習を重ねるといろいろ出てくるので、なにを聞かれても答えられるようにしておかないといけないですね。

ー コンサートマスターの役割をひとことで言うと？

水村： 指揮者がいる場合でも、指示するタイミングには「芯」がありますが、実際は各パートで楽器の波長とか特性による僅かなずれがあります。芯を合わせたうえで、微妙なずれを絶妙にまとめていくのはコンサートマスターの仕事なのかなと思います。

でも、全部を一度に聴くことはなかなかできないですよ。聖徳太子みたいな耳が欲しいですね！

ー 聴き手としてはどこが聴きどころでしょう？

水村： 指揮者なしで成り立つのかという疑問から始まると思いますが、それは最低限のことです。その次の段階として、個性を生かしたうえでどうまとめるのかというところを聴いていただきたいですね。

ー 2回目以降はどんな挑戦をしますか？

水村： 今回はベートーヴェンで揃えましたが、次回はブラームスをやりたいですね。一人ひとりの解釈がベートーヴェン以上に多様になりうるので、ブラームスとして、一つの音楽をどう作っていくかが課題です。



<山之内正プロフィール>

東京都立大学理学部卒業、出版社勤務を経てオーディオ、音楽の両分野での執筆活動に専念。Audio Accessory、AV Review、STEREO、レコード芸術、Mostly Classicなどに執筆中。著書：『インターネットで変わる音楽作業』（アスキー）、『はじめて楽しむホームシアター』（光文社）。

横浜ゾリステン (パート内順不同)

長崎亜星 (フルート)	昭和音楽大学卒業。1998年湘南支部新人演奏会出演、静岡県フルート協会主催アンサンブルコンクールにて優秀賞受賞。黒田隆、増村修次、J、C、ジェラルド、石田真弓の各氏に師事。
小津まゆみ (フルート)	昭和音楽大学卒業。2008年ハンブルク州立音楽院卒業。長谷川修、黒田隆、H.U. ハイנטスマン、U. バイセンヒルツの各氏に師事。
美島美與 (ピッコロ)	洗足学園大学、プレーメン州立芸術大学、ハンブルグコンセルバトリウムを卒業。酒井秀明、大友太郎、ハンス ウド・ハイントスマン、ベッティナ・ウィルド、ユルゲン・フランチ各氏に師事。第6回クラシック音楽コンクール入選。
崎本絵里菜 (オボエ)	東京芸術大学大学卒業。和久井仁、小畑善昭、池田昭子の各氏に師事。室内楽を、佐久間由美子、水谷上総の各氏に師事。
杉原由希子 (オボエ)	愛知県立芸術大学卒業。東京芸術大学大学院修了。第6回高校生国際芸術コンクール '99第3位。07年第76回日本音楽コンクール入選。北島章、和久井仁、古部賢一、浦文彦、小畑義昭、オットー・ヴィンター、青山聖樹の各氏に師事。
木原亜土 (クラリネット)	国立音楽大学卒業。1999年、ビュッフェ・クランボン主催「欧日音楽講座」で奨励賞を受賞。武田忠善、横川晴児の各氏に室内楽を生島繁、宮本明恭の各氏に師事。
松本安津美 (クラリネット)	国立音楽大学卒業。東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。池松和彦、浜中浩一、の各氏に、室内楽を中川良平の各氏に師事。
向後崇雄 (ファゴット)	武蔵野音楽大学卒業。ケルン音楽大学に入学。岡崎耕治、ゲオルグ・クリュッチュ、ウーレ・クリスチャン・T・ダールの各氏に、室内楽を甲斐道雄、岡崎耕治、ログリット・イシャイの各氏に師事。
徳丸真理 (ファゴット)	東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。岡崎耕治、日名弘見、河瀬伸子の各氏に師事。
望月理江 (コントラファゴット)	東京芸術大学卒業。第9回日本クラシック音楽コンクール第二位。第1回横浜国際音楽コンクール第2位。岡本正之、河村幹子、ダニエル・マツカワの各氏に師事。室内楽を吉田將、鈴木良昭の各氏に師事。
金城和美 (トランペット)	沖縄県立芸術大学卒業。東京芸術大学音楽学部別科器楽専攻終了。津堅直弘・祖堅方正・杉木峯夫・大隅雅人の各氏に師事。
原育海 (トランペット)	東京芸術大学卒業。東京芸術大学神奈川同声会新人演奏会に出演。2006年 クルト・マズア指揮メンデルスゾーン基金コンサートに出演 森雅貴、大倉滋夫、津堅直弘、井川明彦、杉木峯夫の各氏に師事。
関谷美紀子 (ホルン)	東京芸術大学卒業。ヤマハ新人演奏会出演。ホルンを大橋晃一、守山光三、ミクローシュ＝ナジ、田場英子の各氏に師事。
内田隆太郎 (ホルン)	武蔵野音楽大学卒業。須山芳博、故田中正大、水野信行の各氏に、室内楽をミクローシュ・ナジに師事。モーツァルテウム夏期国際アカデミーにてラドヴァン・ヴラトコヴィッチ氏に師事。
安部磨理子 (ホルン)	桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。大橋晃一、守山光三、猪井正幸の各氏に師事。室内楽を鈴木良昭、浅野高瑛、二宮和子の各氏に師事。
吉田彩子 (ホルン)	静岡県立音楽コンクール管楽器部の部入賞。国立音楽大学卒業。卒業時に武岡賞受賞、卒業演奏会、ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。桐朋学園大学研究科修了。天野昌昭、安原正幸、樋口哲生の各氏に師事。
酒井陽介 (トロンボーン)	東京芸術大学別科修了。第8回浜松国際アカデミー&フェスティバルに参加。同新人演奏会に出演。これまで萩谷克己、栗田雅勝、古賀慎治、イアンバウスフィールドの各氏に師事。
有賀佑介 (トロンボーン)	東京芸術大学卒業。ソロアルバムFIREBASSをリリース。伊藤清氏に師事。
片野坂りさ (トロンボーン)	東京芸術大学卒業。第7回トロンボーンコンペティション奨励賞受賞。第23回鹿児島新人演奏会出演。鹿児島県文化振興財団理事長賞受賞。故・白石直之、栗田雅勝、秋山鴻市の各氏に師事。
水村浩司 (ヴァイオリン)	東京芸術大学卒業。北垣紀子、故・久保田良作、澤和樹、山口裕之、松原勝也の各氏に師事。第50回全日本学生音楽コンクール名古屋大会小学校の部第1位。第55回同コンクール高校の部第一位。
田島華乃 (ヴァイオリン)	桐朋学園大学卒業。全日本芸術コンクール第二位。富山室内楽セミナーにおいて、東京クァルテットのレッスンを受講。石橋敦子、江口有香、小林健次の各氏に師事。
田代藍 (ヴァイオリン)	東京芸術大学卒業。故・鷺見康郎、山岡耕作、浦川宜也、荒井英治の各氏に師事。第5回JILA音楽コンクール第二位。第26回茨城県新人演奏会にて新人賞受賞。他、コンクール入賞・オーディション合格多数(室内楽を含む)。
増村寿乃 (ヴァイオリン)	東京芸術大学卒業。全日本学生音楽コンクール東京大会奨励賞、神奈川県高文連音楽コンテスト総合優勝、大阪国際音楽コンクール第3位。川上久雄、清水高師、室内楽を松原勝也、漆原朝子、藤森亮一、ヴァディム・サハロフの各氏に師事。
片岡未知留 (ヴァイオリン)	東京音楽大学在学中。前沢均、大谷康子、齊藤真知亜、室内楽を藤原浜雄、山崎早登美に師事。
川上裕司 (ヴァイオリン)	東京芸術大学卒業。同大学院修士課程修了。今岡康代、十川真弓、光永俊彦、佐久間礼子、松原勝也、岡山潔の各氏に師事
田中大輔 (ヴァイオリン)	国立音楽大学卒業。守岡輝、堀正文の各氏に師事。
梶川空飛亜 (ヴァイオリン)	東京芸術大学在学中。佐々木はるる、清水高師、塚原るり子、野口千代光の各氏に師事。
印田千裕 (ヴァイオリン)	東京芸術大学卒業。英国王立音楽院ディプロマコース修了。吉川朝子、澤和樹、ヴォルフガング・マルシュナー、ジョルジュ・バウクに師事。ノヴォシビルスク・ヤングヴァイオリニスト国際コンクール・ジュニア部門第三位、江藤俊哉ヴァイオリンコンクール第1位。

井神麻友子（ヴァイオリン）	桐朋学園大学卒業。第13回ベストプレイヤーズコンクール奨励賞受賞。第10回別府アルゲリッチ音楽祭に参加。故・久保田良作、鷺見健彰の各氏に、室内楽を徳永二男、藤井一興の各氏に師事。
須山暢大（ヴァイオリン）	東京芸術大学在学中。第1回宗次エンジェルヴァイオリンコンクール第二位。2007年シオン・ヴァレ国際ヴァイオリンコンクール第五位。グリゴリー・フェイギン、石川静、ジェラルド・ブーレ、山口裕之各氏に師事。室内楽を川本嘉子、岡山潔、山崎伸子各氏に師事。
東山加奈子（ヴァイオリン）	東京芸術大学卒業。第57回全日本学生音楽コンクール東京大会入選、第13回日本クラシック音楽コンクール入賞、室内楽においては平成16年日本アンサンブルコンクール優秀賞、大阪国際コンクールアンサンブル部門二位。滝川美穂子、稲垣美奈子、山岡耕筈、山岡みどり、前澤均、清水高師の各氏に師事。
坂元愛由子（ヴァイオリン）	東京芸術大学卒業。野上阜三博、若林暢、澤和樹の各氏に師事。
ビルマン聡平（ヴァイオリン）	東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業。現在同大学在学中。毎日学生音楽コンクール大阪の部、第3位。大阪国際音楽コンクール、第3位。日本芸術家コンクール、第1位。山本彰、工藤千博、澤和樹、清水高師の各氏に師事。
舘泉礼一（ヴァイオリン）	東京芸術大学卒業。国立音楽大学付属中学在学中、全日本ソリストコンテスト高校生の部入賞。同年ベストプレイヤーズコンテスト大学・一般の部入賞。ヴァイオリンを江藤俊哉、辰巳明子、清水高師、藤原浜雄の各氏に師事。ヴィオラを菅沼準二、川崎和憲、大野かおる各氏に師事。
小倉萌子（ヴァイオリン）	東京芸術大学卒業。ヴァイオリン・ヴィオラを加宮令一郎、ヴィオラを菅沼準二、川崎和憲、林徹也各氏に師事。
高橋梓（ヴァイオリン）	東京芸術大学卒業。同大学院音楽研究科修士課程修了。第3回ドイツ・クワッケンブリュック国際芸術コンクール第一位、第9回日本演奏家コンクール第一位及び芸術賞、第7回千葉市芸術文化新人賞等受賞。菅沼準二、C.ルローン、大野かおる各氏に、室内楽を岡山潔、松原勝也、山崎伸子、花崎薫の各氏に師事。
神原いずみ（ヴァイオリン）	東京芸術大学在学中。坂口弦太郎、川本嘉子、川崎和憲の各氏に師事。
関口将史（チェロ）	東京芸術大学卒業。ヴァーツラフ・アダミーラ、向山規矩子、山本佑ノ介、河野文昭、北本秀樹各氏に師事。
内田佳宏（チェロ）	京都薬科大学卒業。東京芸術大学別科終了。東京芸術大学院在籍。2006年熊楠の里音楽コンクール第一位、及び紀伊民放社長賞受賞。2007年度青山音楽新人賞受賞。林裕、河野文昭、西谷牧人の各氏に師事。室内楽を松原勝也、玉井菜採、ほか多くの指導者に師事。
佐藤有沙（チェロ）	東京芸術大学在学中。第16回及び第18回和歌山音楽コンクール弦楽器部門最高位。M.ベトラージュ、E.フェランド、A.ムニエ、L.クラレット、P.ミュレールの各氏の公開マスタークラス修了。吉田顕、林俊昭の各氏に師事。室内楽を山口裕之、松原勝也、河野文昭、ヴァディム・サハロフ、漆原朝子、久合田緑、迫昭嘉の各氏に師事。
福井綾（チェロ）	東京芸術大学在学中。2006年鎌倉学生音楽コンクールにて鎌倉音楽クラブ賞受賞。斎藤章一、宮城健、山崎伸子の各氏に師事。
早川珠実（コントラバス）	東京音楽大学卒業。永島義男、松本武全の各氏に師事。
吉本宗司（コントラバス）	東京芸術大学卒業。永島義男、山本修、野田一郎、片山敏夫の各氏に、室内楽を鈴木秀美に師事。
石橋知佳（打楽器）	東京芸術大学卒業。卒業時に同声会賞受賞。打楽器を高田みどり、有賀誠門の両氏に師事。2009年、ブルガリアでの打楽器国際コンクール・デュオ部門にて三位入賞。

横浜ゾリスTEN事務局

住田英二（事務局長）
渡辺智晴（マネージャー）
久保寺淳（プログラム・ノート）
飯倉美穂（プログラム・構成）
住田久美子（ライブラリアン）
和田久美子（ステージマネージャー）
山之内正（アドバイザー）

Special Thanks

渡辺裕道 東京芸術大学彫刻科卒業。現在東京芸術大学大学院に在学中。
永井信義

はじめての人からプロフェッショナルまで
管楽器は YOKOHAMA センtral



セントラル楽器本館

情報満載

ホームページ

<http://central-gakki.jp>

E-mail:web@central-gakki.jp

毎日新鮮な情報に更新中！
ぜひアクセスしてみてください！



ヤマハ・サンキョウ・ヤナギサワ等、国産の一流ブランドから、ヨーロッパ・アメリカの超一流ブランドまで、すべてがそろった
管楽器の専門店

株式会社 セントラル楽器

〒221-0822 横浜市神奈川区西神奈川1-15-2
TEL 045-324-3111(代) FAX 045-324-4025

SUMINO A MUSICAL INSTRUMENT STORE
WEB SITE

創業31年の実績。安心の完全保証。



そして、自信の**特別価格**でご紹介します！

お問い合わせは

 0120-76-5516

FAX.044-411-3454

お問い合わせは[こちら](#)へどうぞ。